

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 117
2026.1

TOPICS

1

令和8年年始式を開催



1月5日、創立五十周年記念館金光ホールにおいて、令和8年年始式を開催しました。

那須保友学長は、まず、昨年一年間にわたる教職員の尽力に謝意を述べ、本年も引き続き、「不易流行」、「J-PEAKS」、「2050年」を重要な視点として掲げ、将来を見据えた大学運営を進めていく考えを示しました。そのうえで、昨年10月に発表した「研究大学宣言」に触れ、研究を大学の中心に据え、教育と研究を両輪として進める姿勢を改めて強調しました。

那須学長は、「大変」という言葉を「大きく変わる前触れ」と捉え、困難をチャンスに変える姿勢を共有しました。「迷ったら前へ、苦しかったら前へ。後悔するのはその後」と述べ、変革期を前進する大学でありたいと呼びかけ、今年の合言葉を『大きく変わる』としました。挑戦を恐れず一歩を踏み出すことで、岡山大学が未来に向けて力強く進化する一年にしようと結びました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14977.html

TOPICS

2

富樫庸介教授が第22回(令和7年度) 日本学士院学術奨励賞を受賞

学術研究院医歯薬学域(医)の富樫庸介教授が、第22回(令和7年度)日本学士院学術奨励賞を受賞しました。

この賞は、若手研究者を顕彰して今後の一層の研究を奨励することを目的として、すぐれた研究成果をあげた若手研究者のうち、今後の活躍が特に期待される者に対して授与されます。

富樫教授はがん細胞が宿主の免疫反応から逃避する機構を次々に明らかにしています。富樫教授の発見はがん細胞の免疫逃避機構に全く新しい観点をあたえるだけでなく、がん免疫療法の際の患者層別化・ミトコンドリア伝搬阻害剤の開発など、今後の新しいがん医療への展開も期待されます。

富樫教授は「このたびの受賞を大変光栄に存じます。がん細胞が持つ変異ミトコンドリアが周囲のT細胞へ移行し、その機能を低下させることで、がんが免疫から逃れる新たな仕組みを示しました。多くの幸運と周囲の支えにも恵まれ、本研究をここまで進めることができました。今後も、そのような着想や偶然の出会いを大切にしながら研究を進めてまいります」と述べました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14970.html

Pick up!

「岡山EXPOラボ2025一次世代と創る地域の未来ー」を開催



12月20日に、本学津島キャンパスの大学会館で、SDGsアンバサダーが中心となって立ち上げた学生団体「OU!万博」が「岡山EXPOラボ2025一次世代と創る地域の未来ー」を開催しました。

昨年度イベント「岡山EXPOフォーラム 万博と私たちの未来」に続き、2回目の開催となった今年度は、10月に閉幕した大阪・関西万博の熱狂を「一過性のもので終わらせず、その学びや志を岡山へと継承する集大成の場」として企画。万博から受け取ったバトンを手に、『楽しい』を入りに、誰もが自分らしく輝ける未来社会を、次世代が主体となって具体的に描き出す「ラボ(実験場)」として展開しました。

当日は、多様なプログラムを展開し、万博について楽しく学ぶ機会となりました。エンディングセレモニーでは、観客やスタッフも加わった会場全体での総踊りが行われ、最高潮の盛り上がりの中でイベントは幕を下ろしました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15010.html

TOPICS

3

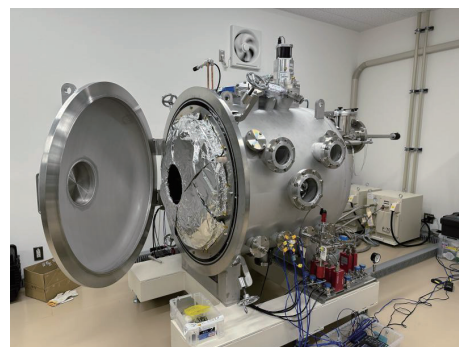
火星環境を再現可能な“惑星表層環境シミュレータ”を導入！

本学は、火星表層環境を模擬し、その場合分光実験や地形形成実験、探査用機器の性能評価・耐性試験等を可能とする「惑星表層環境シミュレータ」を、2025年10月に導入しました。

本装置は、本学が採択を受けた文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」の取り組みの1つです。“研究設備・機器の共用化の強化”の一環として、本学の最重点研究分野に含まれる「惑星科学分野」のさらなる高度化と、それに伴う研究・イノベーション創出の一層の推進を目的とし、岡山大学高等先鋭研究院を構成する惑星物質研究所(本学三朝キャンパス)に設置されました。

本装置が設置されている惑星物質研究所は、文部科学省より共同利用・共同研究拠点(惑星物質科学研究拠点)として認定されており、本装置は、共同利用研究設備として、学内外の研究者に広く開放されます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15011.html



TOPICS

4

総合技術部の渡邊技術専門職員と医療技術部の岩藤臨床工学技士が「令和7年度医学教育等関係業務功労者表彰」を受賞



業務作業(パラフィン切片作製)をする渡邊技術専門職員

本学総合技術部医学系技術課の渡邊治之技術専門職員と岡山大学病院医療技術部の岩藤晋臨床工学技士が、12月2日に文部科学省特別講堂において開催された「令和7年度医学教育等関係業務功労者表彰式」にて表彰されました。

医学教育等関係業務功労者表彰は、国公立大学において、医学または歯学に関する教育・研究・患者診療等に係る業務に熱心に従事し、周囲の規範となっている職員を対象に行われるものです。関係職員の士気向上を図り、医学・歯学教育の一層の充実を目的として実施されています。

渡邊技術専門職員は、「本日の栄えある表彰を賜り、身に余る光栄と感謝申し上げます。これを励みに、医学教育ならびに医療のさらなる発展に微力ながら貢献できるよう、今後も一層精進してまいります」と述べ、岩藤臨床工学技士は、「喜びとともに責任の重さを感じております。大学病院の医療は多職種の連携によって成り立っております。これまでご指導・ご支援くださった皆さまに心より感謝申し上げます。これからも初心を忘れず、患者さんに安心・安全な医療を受けていただける環境づくりに貢献できるように精進してまいります」と述べました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15005.html

PRESS
RELEASE光合成の主役はヒーローだった？
「光合戦隊ヒカレンジャー」が表紙を飾る国際特集号を発行

岡山大学学術研究院先鋭研究領域(資源植物科学研究所)の坂本亘教授、同学術研究院先鋭研究領域(異分野基礎科学研究所)の沈建仁教授らがGuest Editorを務めた光合成研究の国際特集号が、植物科学分野の主要学術誌 Plant and Cell Physiology(Oxford University Press)において2025年11月に発行されました。

本特集号は「Photosynthesis – the basics, mechanisms, and applications(光合成—基本からメカニズムと応用まで)」と題し、光エネルギー変換反応の基礎、分子機構、制御、進化、さらには農業や人工光合成への応用までを幅広く扱っています。

また、光合成を担うタンパク質複合体をヒーローに見立てた独創的な表紙を通じて、光合成研究が地球環境と持続可能な社会を支える重要な科学であることを視覚的にも発信しています。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1485.html

